



日本の悲願かなえた18年の大坂なおみ 全米、全豪制覇と世界1位

共同通信編集委員 小沢 剛



全米オープン女子シングルスに優勝、日本選手として四大大会シングルス初制覇を成し遂げた大坂なおみ

熊谷一彌が初めて全米選手権に挑んでから1世紀余。2018年、ついにシングルスでグランドスラム大会を制覇する選手が現れた。全米オープン女子シングルス決勝で「女王」セリーナ・ウィリアムズを破り、初優勝した大坂なおみである。沢松和子、伊達公子がはね返された四大大会決勝の壁を突破し、日本の悲願をかなえた。

大坂は続く19年の全豪オープンも勝ち、メジャー連勝とともに、男女を通じてアジアの選手で初めて世界ランキング1位に輝いた。

* *

大坂の転機は18年3月のインディアンウェルズだった。シャラポワ（ロシア）ら元世界トップ10を連破し、決勝では世界1位のハレプ（ルーマニア）を破ってツアー初優勝。この経験と自信を大舞台で生かした。全米は絶好調。前回準優勝キーズ（米国）との準決勝でブレイクポイントを13本も与えながら、すべてしのいだ。メンタルの成長がうかがえた。



写真：塚越巨/tennis.jp

決勝は最初から圧倒した。主役は途中からセリーナに移った。第2セット早々にコーチングの反則行為があったとして最初の「ウォーニング」。第5ゲームでダブルフォルトから大坂にブレイクバックを許すとラケットをたたき折って2度目の警告で1ポイントを失う。大坂が簡単にキープして3オール。激高して暴言が始まり、第7ゲームで大坂がブレイクすると抑えが効かなくなった。警告2度でポイントを奪ったチェアアンパイアを「泥棒」などと罵倒し、3度目の警告。闘わずして1ゲームを手放す。大坂の5-3。女王は自壊した。

セリーナは、この程度の暴言は男子ツアーでは見逃されるとして、警告は男女差別だと主張した。それを支持する人もいる。それだけ米スポーツ界に性差別が存在している証左なのだが、いやしくもグランドスラム大会の決勝で見逃される行為ではない。女子テニスのリーダー自らが、そのスポーツの品位をおとしめた。自分なら許されると考えるなら傲慢である。女性の権利擁護に熱心なマルチナ・ナブラチロワも「あの抗議で彼女もまた悪行の一部になった」とニューヨーク・タイムズに寄稿した。

もっとも、セリーナを後押しする2万人余の観衆の異様な雰囲気の中、自分を見失わなかった20歳の大坂はたたえられる。17年末から彼女のコーチになったサーシャ・バインとの結晶だ。父はハイチ、母は北海道出身。逆境でもサーブ一発で切り抜けられるパワーは過去の日本女子選手になかった武器である。

19年1月の全豪では3回戦が山場。謝淑薇（台湾）の緩球にミスを重ねた。先にセットを失い、第2セットも2-4で相手サーブの40-0。だが気持ちを立て直し、5連続ポイントを挙げピンチを脱した。準々決勝でセリーナが負傷してK・プリスコバ（チェコ）が勝ち上がる幸運にも恵まれ、準決勝ではその元世界1位プリスコバを、決勝もウィンブルドン2度優勝のクビトバ（チェコ）を、ともにフルセットで下して、グランドスラム連覇を達成した。背景に忍耐力の醸成がある。自らを「3歳児」と評した自滅癖が、我慢することで流れを引き戻せるようになった。窮地でも集中力アップが目立った。1月28日の世界ランキングでナンバーワンに就いた。



写真：塚越巨/tennis.jp

長いテニスの歩みを記録し、振り返り、いとおしむ場に

テニスミュージアム委員長 吉井 栄



この度、テニスミュージアム委員会の委員長という大役を引き受けさせていただく事となりました。はじめに、故宮城黎子さんのご遺志を継ぎ、我が国のテニスの歴史を記録するべく活動をされ、発足当初より多大なご苦勞を重ねてくださいました小田晶子委員長及び委員会の皆様へ心より感謝いたします。

記憶のどこかにネジのついた木枠に収められた木製のラケットがあります。大切にすべき物、、、幼い我が心に刻まれていました。フランスの四銃士、そしてコナリー、ホード、ローズウォール、レーバーらが繰り広げた華麗なプレー。その後のコナーズ、アッシュ、ボルグ、レンドル、マッケンローら歴代のスター達が走馬灯のように蘇ります。1968年のプロ化によって加速したテニスの発展。キング率いるトップの女子選手達が声をあげなければ、テニス界の男女平等化も成し得ませんでした。

その間、日本のテニスも独自の歩みを続けてきました。1920年代に、清水、熊谷両氏が海外へ挑戦し、1955年には宮城・加茂ペアが全米選手権男子ダブルスのタイトルを取り、1975年には吉田（沢松）和子さんがキヨムラと組みウィンブルドン女子ダブルス優勝。その延長線上、錦織選手が世界のトップに君臨し活躍する一方、大坂選手がグランドスラム大会を2連覇し、世界のテニスと日本のテニスが見事に合流した今、このようなときだからこそ、内外の今までの長いテニスの歩みを記録し、振り返り、いとおしむ、そのような場所に我がテニスミュージアムがなるようお願い、微力ながら貢献できればと思っております。

資料館準備室の立ち上げから



テニスミュージアム委員 小田 晶子

皆様、お元気でお過ごしのことと存じます。

大坂なおみ選手の快挙に遭遇でき何と幸せな事でしょう。日本中が世界No.1誕生を祝福、なおみ選手の可愛らしいキャラクターは世界のテニスファンにも愛され嬉しいですね。

ミュージアム設立に向けた活動経緯を下に掲載しましたが、宮城黎子さんの熱意で資料館準備室を立ち上げてから早くも17年が経過、大変、多くの方々のご指導、ご支援のお蔭で今日まで活動を継続して参りました。ミュージアム設立と言う「終わりのなきプロジェクト」は総額5,400万円に及ぶ貴重な浄財を延べ2090件を超える多くの方々からお寄せ頂いたお蔭で、下に掲載した活動を行う事が出来ました。心より、御礼を申し上げます。

既にニューズレターに掲載させて頂きました下記のご貴重なご提言を基に、「日本のテニス文化を守り、育てる為に」の活動を継続して参ります。

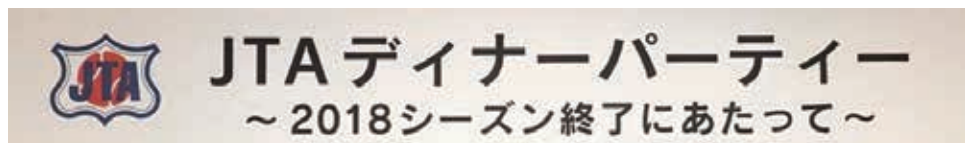
*歴史から学ばない民族は滅びる 宮城淳 *我が国が生んだ偉大なプレーヤーの戦績や人柄に触れ、そこから夢や勇気を貰うので在ればと思う。テニスミュージアムの設立が、我が国のテニス界の活性化に大きな役割を果たす事を信じて疑いません 市山哲 *テニスミュージアムに来て先人が達成された偉業を見てそれに感銘したり讃えたりするだけが目的ではなく、先人の偉業から「よし、自分も負けない様に頑張るぞ」と自分なりの

目標をもって貰うきっかけを作るのが目的ではないか。勿論、先人から比べたら、ずっと小さな目標で良いのだ。でも、テニスミュージアムに来てそういう気持ちになり、テニスにチャレンジして下さるテニス愛好家が一人でも増えたら嬉しい 盛田正明 *テニス先進国の日本にも近い将来、日本が長年刻み込んで来た栄光の歴史を一堂に集めたテニスミュージアムを実現させ、多くのテニスファンに楽しんで頂きたい 川延栄一 *試合の結果だけでなく選手の心理的な側面についての記述を加えられれば、更に興味深い内容となる 我孫子和夫 *スポーツの原点は「心」にあり、尊敬の気持ちを超越「ロマン」とも言えるのではないのでしょうか 畔柳信雄 *レジェンドを語り継ごう。文化的な香りはせず、歴史、伝統を重んじない日本国民には一抹の寂しさの様なものを感じる 渡邊康二 *東京五輪後、施設利用が実現すると、重要なテニス史の発信基地となり、未来永劫にテニス史を記録する集約基地になる事は間違いない 川延尚弘 *歴史の上に今が在り、未来が築かれていくものです。今を生きる私たちがこの史実を整理し、さらに次世代へ残していかなければなりません 浅沼道成 (ニューズレターより一部転載 掲載順・敬称略)

新年度から吉井栄新委員長に引き継ぎますが、変わらぬご支援の程、宜しく願いを申し上げます。

テニスミュージアム設立活動の経緯

- | | | | |
|------|--|------|--|
| 2002 | 平成14年 テニス資料館準備室発足 内山勝総務本部長、委員長：宮城黎子、委員：小田晶子・小林公子・岡田邦子 | 2015 | 平成27年 ニューヨークカップ復元 1921年に寄贈された日本クラブ(NY)にて日本クラブ高橋規会長、在NY日本総領事高橋礼一郎大使、JTA畔柳信雄会長列席のもと復元披露を行う 第90回記念全日本テニス選手権大会表彰式で、男子シングルス優勝の内山靖崇選手に授与 |
| 2008 | 平成20年 宮城黎子さんのご遺志を基に「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」を創設 | 2016 | 平成28年 「全日本テニス選手権90年の軌跡」DVD作製 |
| 2012 | 平成24年4月 公益財団法人日本テニス協会寄附金口座設置により「(公財)日本テニス協会寄附金のミュージアム特定寄附金」となり税法上の優遇措置を受けられる事となった | 2017 | 平成29年 有明テニスの森公園が2020オリンピック・パラリンピック開催準備の改修に入る為、有明コロシアム倉庫、岸体育館倉庫他に分散されて居た資料を新木場ジェイアール物流倉庫に移転 |
| 2014 | 平成26年3月 基金の中期5カ年計画終了 熊谷・柏尾組アントワープオリンピック獲得の銀メダルレプリカ作製 デ杯「甦る田園コロシアムの熱戦」、「日本女子選手栄光への道のり～フェデレーションカップの時代」DVD作製 戦前、戦後の古いテニス専門誌のスキニング | 2018 | 平成30年 新木場倉庫の史資料(段ボール500箱、コンテナ50基、ラケット350本等)の整理とデータ化作業を行う |



2018年11月30日 於：明治記念館 蓬莱の間
2018年度に活躍した選手達の表彰が行われた

加藤未唯 穂積絵莉、日比野奈緒、尾崎里紗、二宮真琴、青山修子、清水綾乃、大坂なおみ(VIDEOレター)

ダニエル太郎、錦織圭、マクラクラン勉、杉田祐一、内山靖崇、西岡良仁、綿貫陽介、他のナショナルチームメンバー

レジェンド：宮城淳、渡邊康二、坂井利郎、神和住純、平井健一、渡辺功、西尾茂之、福井烈

プレゼンター：畔柳信雄会長、渡邊康二副会長、杉田祐一



ダニエル太郎、錦織圭、マクラクラン勉、杉田祐一、内山靖崇、田島尚輝、錦貫陽介、加藤未唯、穂積絵莉、土井美咲、日比野奈緒、尾崎里紗、奈良くるみ、二宮真琴、清水彩乃、青山修子、江口実沙

ICジュニア世界大会 チャリティークリニック、日本文化の体験も

日本国際ローンテニスクラブ名誉幹事 吉井 栄



2018年秋、ジャパンオープン翌週、10月7日から12日にかけて日本IC創立40周年を記念して、千葉のエストーレ・テニス・クラブにて2018年度 IC ジュニアチャレンジ・ワールドワイド・ファイナルが開催されました。2年毎に世界決勝戦が行われ、2014年はウィンブルドンのオールイングランド・クラブで、2016年はモナコのモンテカルロ・カントリー・クラブで、



本文化を満喫しました。日頃練習に励み、試合に勝つことを目指し、その延長線上にプレーヤーとしてのキャリアを夢見る若者たちに、テニスを通して社会に貢献できること、また国際交流を行うことができることを知ってもらおうと、それらがまさにICの活動の目指すところなのです。テニスに関わる大人一人一人が、そういったテニスの素晴らしさとパワーを、

というように世界でも有数の豪華なクラブで行われた当大会が、世界中のクラブが開催を躊躇する中、極東の国、日本開催に決定されました。前年の地区予選を勝ち上がった5チーム（イタリア、アメリカ、ウルグアイ、インド、南アフリカ）と開催国日本の6チームが集まりました。



翌週以降日本で開催されるジュニアの大会にも出場する選手も多く集まり、レベルの高い大会となり、連日熱戦が繰り広げられ、総当たり戦の結果アメリカが優勝、なかでも全米14歳以下女子チャンピオンのロビン・モントゴメリーのプレーには目を見張るものがありました。

しかし、ICのモットーはHands Across the Net, Friendship Across the Ocean（ネット越しの握手、海を超えた友情）、すなわちテニスを通しての国際交流です。IC本部の役員たちもICジャパンのメンバー及びボランティアたちにとってもテニスには勝敗よりも大切なこともあると、集まった16歳以下の選手たちにわかってもらうことこそが大きな目的でした。大会に先立って行われたチャリティークリニックでは、近隣から集まった障がいのあるお子さんたちにテニスというスポーツを紹介し、大会初日、高円宮妃殿下のご臨席を賜ったレセプションでは日本伝統の鼓の演奏を体験し、日本のテニス界の方々との交流を深めました。そして、一週間を通して試合の後には日本文化を紹介するイベントを設け、茶道や書道を体験し、成田山新勝寺にお参りに行き、最終日には日本伝統の着物を身につけて写真撮影。



足袋や草履のサイズが小さく素足でテニスシューズをはかなければならなかった何人かを含めて、全員笑顔で日

企画・運営と決して簡単ではないこのような大会を通して身をもって後輩たちに伝えることこそが、今ICが力を入れていることなのです。それは、とかく勝敗だけが重視され、かつての和気藹々とした雰囲気など影をひそめる近年、第一次世界大戦後にギクシャクする国際関係の改善にテニスを通して貢献できないかとICの発足を考えたテニス愛好家のアーサー・ワリス・マイヤーとデビスカップの親、ドゥワイト・デビスの志に思いを馳せずにはいられません。これこそ、途絶えさせたくない、いや、途絶えさせてはいけないテニスを愛する者のスピリットなのです。



20番目の組織として日本I.C.加盟

日本のICは、早くからのその誕生を望まれながら、1978年、世界で20番目に誕生しました。1921年初出場でデ杯チャレンジラウンド進出という、熊谷一彌、清水善造両選手の快挙により、一躍世界テニスに名を連ねた日本はその後、原田武一、太田芳郎、安部民雄、佐藤俊太郎各選手たちのデ杯戦、あるいは各国での活躍、佐藤次郎、布井良助、三木龍喜選手のウィンブルドンでの輝ける成績、戦後のU.S.オープンでの宮城淳・加茂公成選手の複優勝や隈丸次郎、藤倉五郎、中野文照各選手らのデ杯戦での健闘等により、多くの代表選手たちが、それぞれ活躍した国々で、国際会員あるいは名誉会員に推薦されてきました。日本人として最初にイギリス、アメリカの名誉会員となった清水善造選手は、早くからこの国際的なテニスマンの組織を日本に紹介し、戦前、戦後において日本I.C.の設立が話題になったことがありました。以前から、英国をはじめ、各国と交流を深めていた川廷榮一氏は、日本I.C.創立に向けて、主要I.C.の支持を受け、国内で提案し、これを受けた太田芳郎イギリス名誉会員を中心として、当時各国から国際会員に推挙されていた安部民雄、山岸二郎、中野文照、藤倉五郎、隈丸次郎、宮城淳、加茂公成、森清吉、渡邊康二、坂井利郎各氏らが設立世話人となり永年念願とされていた「日本国際ローンテニスクラブ」—THE INTERNATIONAL LAWN TENNIS CLUB OF JAPAN（略称I.C. OF JAPAN）が誕生しました。正式には、1978年7月、ウィンブルドン開催中に行われたI.C.評議会（1947年設立）において、16カ国I.C.の代表の満場一致の支持により、日本I.C.の加盟が認められました。

<https://www.icjapan.org/ic-japan---qnhnv> より一部抜粋

「初めて観た世界のテニス」

(公財) 吉田記念テニス研修センター会長 吉田 和子 (旧姓・沢松和子)



私が中学生になるかならない1960年代始め、大阪に世界のトップ・プロのテニスプレーヤー達が来日しました。今では全豪オープンのセンターコートに名前がついているロッド・レーバーを始め、ルー・フォード、ケン・ローズウォール、パンチョ・セグラの選手達でした。父(沢松豊)が姉と私を会場の体育館に連れて行き彼らのプレーを観る機会を与えてくれました。総てのショットがライン上、または、ラインの近くに落ちるといふテニスを見「ウォー!! 凄い!!」と唯々、プレーの素晴らしさに驚いたのを今でも覚えております。

私達を観戦に連れていってくれた父が、アメリカからやって来たテニスの神様と言われたB・チルデン、バインズ両選手のプレーを観たのは1936年の事だった様です。父は事あるごとに

チルデン、バインズ両選手のプレーを観戦した事を嬉しそうに話しておりました。

今は、世界のトップ・プレーヤーの試合をテレビで何時でも見る事ができ、又、日本で開催されるトーナメントで観戦する事も出来ますが、今から83年も前に日本でチルデンの様な素晴らしいプロのテニス選手のプレーを観る事が出来たことは、父にとって本当に衝撃的な事だったのだと思います。父がテニスの「虜」になったのは、もしかしますと彼等のプレーを見た事が、きっかけになったのかも知れません。父に、その時の印象、彼らのプレーぶり等を、もっと良く聞いて置けば良かったと今は残念に思っております。



沢松家所蔵

チルデン、バインズ 一行来る

読売新聞社の招待により十月、チルデン、バインズ、シャープ嬢の一行が来朝した。彼らはプロであるために、日本選手との対戦は出来なかった。

チルデンはイースタングリップの第一者で、庭球王の名に恥じない不世出の名手。体力が衰えてバインズに手加減されていたが、技の円熟とプレーの変化には尽せぬ球種があった。得意のキャンボールのサーブ、それにツイストした弾む第二サーブ。ストロークはフォアもバックも三様に打ち分けた。すなわちドライブにスライスにフラット、それにチョップは両方ともに見事で、強球をイナス手際、ドロップシットの妙味など、完成した一人のアーティストだった。

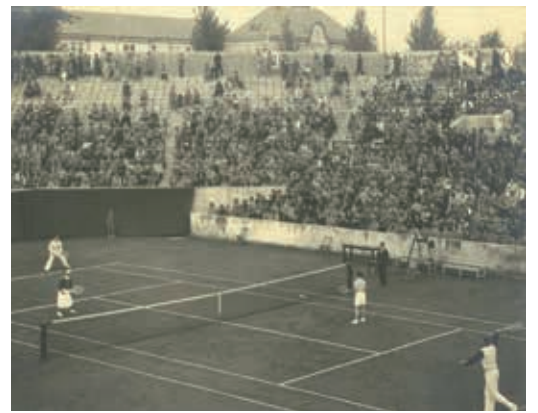


庭球百年より

バインズはウィンブルドンと全米を1932年に獲得した後にプロ入りした。バインズはチルデンを継ぐもの、現に世界一の実力を持つプレーヤーで、正統的テニスでオールラウンドのプレーをする。彼のサーブは殺人的ともいわれるスピードを持ち、フォアのハードヒットのスピー

ドとペースは驚嘆に値する。

シャープ嬢は米人としては小柄で、かつて第六位であったというが、一流のプレーヤーではない。彼ら一行の来朝は正しい、いい



左側前衛岡田早苗嬢

写真提供: 及能茂道

プレーを日本のテニスプレーヤーに見せ、女子は岡田嬢が相手し、非常に良い教訓を与えてくれた。田園コートは世界的名選手を見ようと連日満員であった。十月十日、十一日両日は田園コート、十六、十七、十八日は甲子園でエキシビションが行われた。

「庭球百年」福田雅之助著より引用

スポーツ界と「パワハラ」について

元AP通信社北東アジア総支配人 我孫子 和夫



近年、日本のスポーツ界ではさまざまな「パワハラ」問題が表面化し、改革に向けての取り組みが進められていると理解する。この問題を議論する際、「パワーハラスメント」は和製英語であり、日本社会に特有な現象であるということをも最初に指摘しなければならないだろう。それに該当する標準英語での表現は、“abuse of power” (職権の乱用) や “bullying” (弱者いじめ) などである。欧米では社会的に容認できない行為だという共通認識があり、散発的な問題発生はあるものの、根深い社会問題として取り上げられたことはない。

その背景には、地位や年齢によって上下関係を規定しようとする日本人の「タテ社会」意識があると考えられる。特に体育会系の部活を経験してきたスポーツ組織の幹部や指導者の多くはその慣習から抜け切れず、後輩や若手選手に対して強圧的な態度を取る傾向にある。暴力行為に及んでも、それは「指導の一環」だとする主張が容認されてきた歴史がある。

若手選手たちが「不条理な扱い」に抗議の声を上げるようになった今、「パワハラ」だと訴えられることを恐れているのは厳

しい指導ができなくなる、あるいはどこまでが許容範囲で、どこから「パワハラ」になるか線引きが難しいなどという意見を述べる指導者がいる。しかし、そこには重大な認識欠如があり、「正しい指導をしているのだから、文句を言わずに従え」という上から目線での態度が見え隠れする。

旧来の権威主義的思考から脱却し、選手と同じ目線で向き合い、しっかりと意思疎通を図ることが肝要だと考える。たとえ過酷な練習を課しても、それが選手の成長や技量向上に必要であることを説明し、選手が納得して行っているとすれば、問題は生じない。個々の人格に対する配慮の欠如とコミュニケーション不足が問題を招く。日本メディアの多くは「師弟関係」という表現を好んで使うが、「師」の無謬性神話は既に崩壊していると認識すべきである。

若手の育成・強化選手や、オリンピックを含む主要国際大会への派遣選手の選考に関しても「フェアであること」が大前提となる。組織幹部少数の意見ではなく、一定の客観的基準を満たしている選手を公正に選ぶ仕組みを確立する必要がある。

委員会所蔵品整理状況の報告

テニスミュージアム委員 武内 勝



1. 分散資料の集約

日本テニス協会事務局の書棚、岸記念体育館の地下倉庫、中目黒のレンタルルーム、有明コロシアム倉庫、有明テニスの森公園事務所その他数カ所に分散所蔵していた資料を新たに協会として借りた新木場倉庫の一箇所に集約しています。オリパラ開催に向け有明の改修工事と、岸記念体育館が取り壊され新国立競技場近くの新会館への協会移転にともなう対応の一環です。

新木場倉庫はJR京葉線高架の下にあるジェイアール倉庫のスペースをテニス協会として借りたもので、新木場駅から徒歩10数分のところ。庫内は一定の温度と湿度で管理され、所蔵品の劣化を防ぐ配慮がされています。またこの保管室での飲食は禁止にするなど史資料の保全を心がけています。



2. 所蔵品の数量

ダンボールとして、国内外大会パンフレット170箱、テニス雑誌100箱、書籍10箱、カップ類35箱、ビデオテープやアルバム写真20箱、スクラップブック30箱、プロ撮影の写真30箱等400箱以上、コンテナが45基以上保管されています。またウッドラケット350本、ポスターやパネルが100枚以上、写真ネガ用キャビネット5台、書棚4架など足の踏み場もないほどですが、動線を確保しながら保管しています。

3. 整理状況

学芸員をお願いし、一緒に作業しながら効率よくかつ内容把握しやすくするための整理方法の指導を受けています。数

年前からカップやラケット等の物品は表・裏・横から写真撮影し、雑誌類や一部のアルバムはスキャナーを活用してデジタル化を図ってきました。昨年からはパンフレット170箱の整理を始め、大会ごとに年代順に整理し直し、大会名称、開催年月、開催地などを所定の用紙に書き込みそれを入力し、一覧表にすることで検索可能にするなど地道な作業を続けました。近い将来にWebTennisMuseumで閲覧出来るよう公開する予定です。



4. 今後の課題

(1) 15万枚以上ある写真ネガの整理と保管です。ネガは経年に伴い酢酸臭が発生してそれが他の所蔵品に悪影響をもたらします。そのため現在はキャビネットごと特殊な包装紙で梱包し、酢酸臭が外へもれないよう厳重な管理の下で保管しています。劣化は年月が経つにつれ益々進むため、早期にデジタル化をしなければなりません。また15万枚を全てデジタル化するのもひとつの方法ですが、費用効率から見れば疑問です。どの方法で貴重な映像を保管するかは重要な課題です。専門企業への外注なども検討しています。

(2) 今後も一層増え続ける史資料の保管も大きな課題です。なんでも保管していくのは倉庫がいくらあっても足りません。保存すべき貴重な資料は何かを十分検討し、それに沿って寄贈をお願いする、廃棄する、他の団体（国立国会図書館など）に委ねるなど選別することも必要です。

公益財団法人日本テニス協会は2019年6月下旬に新宿区霞ヶ丘町のジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア (JSOS) に移転致します。

平成30年度 特定寄附金 テニスミュージアム会計報告書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

| | |
|-------------------------|-------------|
| 平成29年度末基金残高 | 25,037,514円 |
| 平成30年度寄附金額(平成31.3.29まで) | 5,055,000円 |

平成30年度委員会活動費 JTA予算 428万円

主な活動 史資料の収集・整備・データベース化

*新木場倉庫収納史資料整理作業

*テニス誌、大会プログラムなど詳細書き取り

*16mmフィルム・ネガなどのデータ化発注
資料館(野球殿堂博物館)訪問

ニューズレター発行

委員会・全体会議開催

〈揭示板〉

●デ杯「甞る田園コロシアムの熱戦」DVD、フェド杯「日本女子テニス・栄光への道のり～フェデレーションカップの時代～」DVDをご希望の方はミュージアム委員会にお問い合わせ下さい。「日本のテニス」、テニス絵葉書(3種類)は、JTAweb「JTA STORE」で頒布しています。URL:<http://www.jta-tennis.or.jp/>

●古いラケット、文献等のテニス史資料の情報、又、住所、姓名の変更も、JTAテニスミュージアム委員会Email:museum@jta-tennis.or.jpまでお知らせ下さい。

特定寄附金「テニスミュージアム」へのご寄附のお願い

振込先口座名:公益財団法人日本テニス協会 寄附金

金融機関:ゆうちょ銀行 口座番号:00130-0-504638

振込先口座名:公益財団法人日本テニス協会 テニスミュージアム寄附金

金融機関:三菱UFJ銀行 支店名:渋谷中央支店 口座番号:(普通)0272922

クレジットカードによる寄附は、JTAホームページ募金サイトから直接お申込み頂けます。

■テニスミュージアム委員会■

委員長:吉井 栄 副委員長:中川智文、高橋真規子

常任委員:小田晶子、武内 勝、福田達郎、小林やよい、西澤太郎、清水伸一

委員:後藤光将、越智和夫、小沢 剛、塚越 亘、宮城 淳、市山 哲、我孫子和夫、渡邊康二